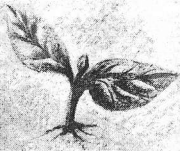


# 東北復興日記

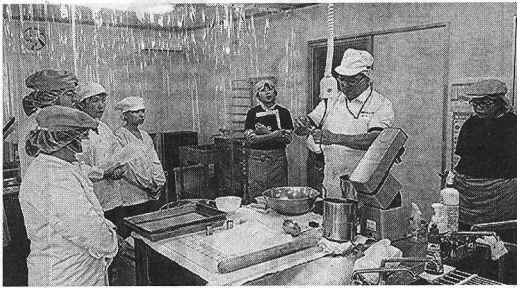


174

東日本大震災から間もなく五年がたちます。この間、福島には世界中の皆さまから温かい応援をたくさんいただきました。心よりお礼申し上げます。

私は二〇一一年からJDF(日本障害フォーラム)「被災地障がい者支援センターふくしま」の支援員として、原

JDF被災地障がい者支援センターふくしま 特定非営利活動法人しんせい 富永美保さん



## 障がい者が力を合わせて



発事故の影響で避難が続く障がい者の支援に携わってきました。当初、避難生活が続く障がい者のために、企業から袋詰め作業やお菓子、縫製などさまざまな仕事の依頼がありました。五百個、六百個という注文を受けることもありました。小さな福祉事業所で請け負うことができず、断らざるを得ない状況が繰り返されました。

こうした中、小さな福祉事業が集まり、力を合わせようと「協働」の仕事が生まれたのです。私たちの主力商品のお菓子「魔法のおかしぼるぼ

ろん」は、二三年から日清製粉グループの技術支援を受け、一年かけて商品化に至りました。現在では十三の福祉事業所が、「お菓子を作る」「箱を折る」「箱詰めや発送を行う」「営業活動を行う」など仕事を分け合い、大量注文にも応じています。写真。また、一五年春には手芸を中心としたものづくりと研修を行う「ミシンの学校プロジェクト」を立ち上げ、ブラザー工業から技術指導を受けながらデニムカバン作りもスタートしました。

皆で仕事を分け合うこと

で、資料入れカバン五百個も一カ月で納品できるまでになりました。今、福島では避難先から故郷へ帰還という新たな状況が始まろうとしています。震災と原発事故の経験から私たちは一人では解決できないことがあることを思い知りました。だからこそ、皆さんの力で力を合わせるネットワーク型の仕事生まれたのかもかもしれません。

避難者の歩む道のりはまだまだ長いものとなることでしょう。これからも皆で力を合わせて頑張っていけます。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。